

# 序 章

## 前提条件の整理

## 1. 計画の目的と内容

### (1) 都市計画マスタープラン策定の背景と目的

那須町における都市計画は下図のような流れで都市計画決定などが行われてきました。

#### 『都市計画区域の決定』（旧那須村全域25,754ha）昭和9年4月

その後、湯本の都市計画道路・下水道、火葬場、高久地区の都市計画道路、都市公園等の決定

#### 『那須町都市計画基本計画』（平成4年度）

那須町の都市計画・まちづくりに係る課題の整理  
那須町の将来像（ランドデザイン）の作成  
那須町都市計画 都市計画区域の整備、開発又は保全の方針の作成  
湯本地区・黒田原地区の将来像・用途地域・都市計画道路の作成  
→湯本地区・黒田原地区の都市計画決定実現へ

#### 『用途地域・都市計画道路の都市計画決定』（平成6年度）

湯本地区の用途地域・準防火地域及び都市計画道路（名称変更）  
黒田原地区の用途地域・準防火地域及び都市計画道路（新規3路線）

#### 『下水道区域変更』（平成9年1月 黒田原地区約266haを追加）

#### 『那須町都市計画マスタープラン』（平成15年度）

上記平成4年度の「那須町都市計画基本計画」においては、湯本地区・黒田原地区の都市計画決定のための方針づくりが主な目的でした。

その後、平成4年に「都市計画法の一部を改正する法律」が施行され、市町村は「市町村の都市計画に関する基本的な方針（市町村都市計画マスタープラン）」を定めることとされたことを受け、各市町村において都市計画マスタープランが作成されるようになりました。

『那須町都市計画マスタープラン』策定の背景と目的は

- 地域特性を活かした都市計画を定め、まちづくりに取り組む必要性
- 住民参加による地区レベルのまちづくり方針作成の必要性（都市計画法における住民意見の反映の明文化はもとより、情報公開や行政の説明責任などの時代の流れに対応）
- 社会・経済情勢の変化に対応した効果的・効率的な整備手法などを検討する必要性
- 計画の内容について人口減少・超高齢社会、産業構造の変化、都市防災などの新たな動向を踏まえた見直しを適宜行う必要性

などが挙げられます。

このような状況の中、平成10年8月に集中豪雨に伴う「那須水害」が発生し、その後国内の社会経済の低迷が続くなか、平成23年3月には東日本大震災が発生しました。

都市防災機能の強化の必要性や社会構造が大きく変化していく中、下記に示すように那須町のまちづくりに係る新たな動向が見られるようになりました。

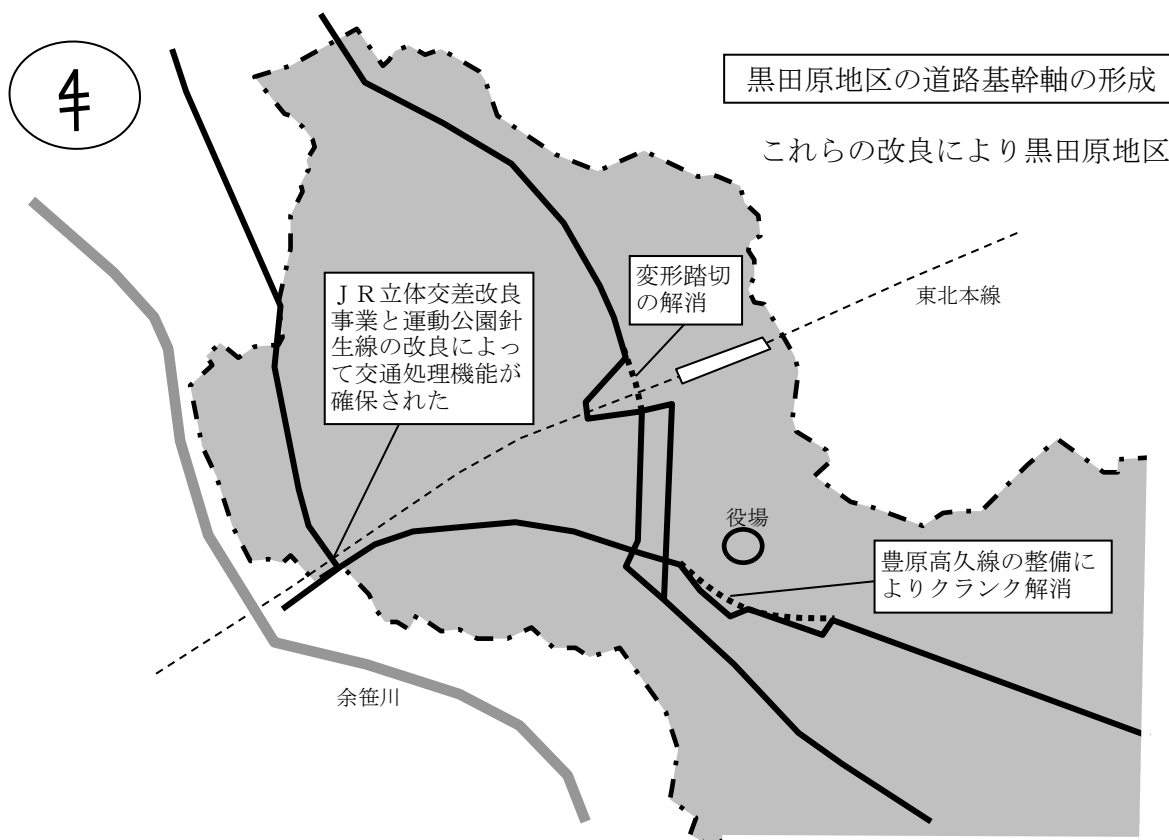
○国内の経済成長の低迷や人口減少・超高齢社会の進行により、持続可能な社会形成に向けた集約的都市構造への見直しが必要となってきた。

○黒田原地区のまちづくりにおいて課題となっていた道路網において、改良事業が実施されることにより、地区内の基幹軸が形成されつつある。

○県道豊原高久線の改良により、市街地内の交通ネットワークなどが大きく改善されることから、これと併せて土地利用などを含めたまちづくりの検討を行う必要性が高くなってきた。

○黒田原地区において、駅前商業空間の空洞化・衰退をはじめとする中心市街地の問題を改善し、道路・下水道等の都市基盤整備による利便性向上に加え、那須町の中心拠点として魅力あるまちづくりを検討する必要性が高くなってきた。

○黒田原地区是那須町の都市活動拠点として、都市化を図る地区としての位置づけであるが、人口減少・超高齢社会を見据えた土地利用と都市施設の配置を検討する必要性が高くなってきた。



そこで、『那須町都市計画マスタープラン』においては、これらの新たな動向を十分に踏まえつつ、今後の那須町の都市計画における指針として活用される計画づくりを図ります。

## (2) 都市計画マスタープランの内容

### ① 基本的事項

- 対象区域：都市計画区域26,044ha（行政区域面積：37,231ha）
- 対象期間：基準年次・・・平成14年度  
中間年次・・・平成22年度（平成24年9月見直し策定）  
目標年次・・・平成32年度

### ② 計画の内容

#### 現況の整理（序章）



#### 構想（第1章～第5章）

##### 第1章 将来都市像の設定

将来の都市像（ランドデザイン）、計画の基本理念（テーマ）  
まちづくりの基本的な方針

##### 第2章 将来フレームの設定

人口フレーム、産業フレーム、土地利用フレームの設定

##### 第3章 まちづくりの基本構想・基本計画

将来都市像実現のための構想（将来的な予定を含めた内容）、市  
街地整備や都市基盤整備等の基本計画

##### 第4章 地域別まちづくりの基本構想・基本計画

地域区分と重点的にまちづくりを検討する地区の抽出、重点地区  
のまちづくり方針の作成

##### 第5章 まちづくり推進方策

各種事業の整備手法等の検討・整備プログラム（特に第4章にお  
ける重点地区）の検討、今後の都市計画・まちづくりにおいて想定  
される課題の整理

## 2. 現況の整理

### 2-1. 現況特性の整理

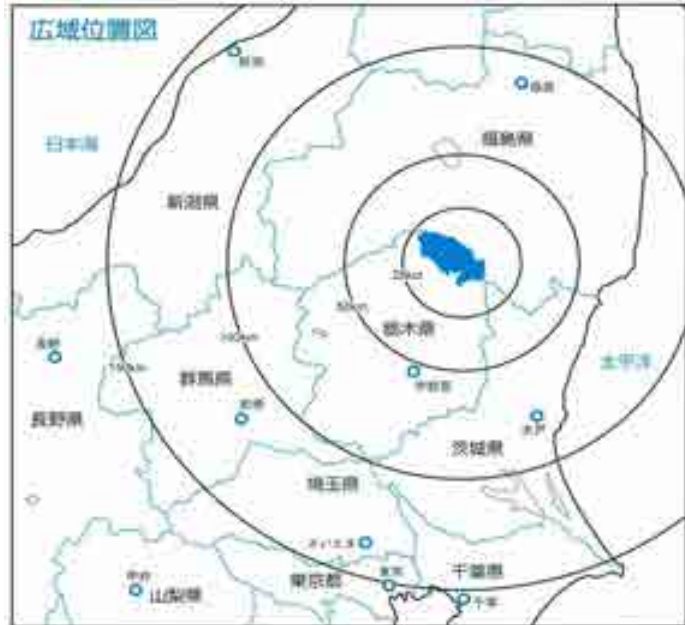
#### (1) 位置・地勢等

##### ①位置・地勢

那須町は栃木県北部に位置し、東京より約170km、宇都宮市より約60kmの距離にあります。

東京からは、東北新幹線や東北自動車道によって日帰りできる交通環境にあります。東は八溝山地を境に福島県棚倉町及び表郷村に、西は那須塩原市に、南は大田原市に、北は福島県白河市及び西郷村に接しています。

山岳や高原等の景勝地、温泉地などが多く、日光国立公園及び八溝国立自然公園に指定されるなど観光の町としても知られています。



##### ②沿革

昭和29年に那須村・芦野町・伊王野村が合併し、那須町として町制施行、その後、昭和30年に鍋掛村の一部が合併し、現在の那須町となりました。

##### ③地形・植生

地形は、土地分類基本調査（栃木県1996）によると、総面積372.31Km<sup>2</sup>の本町の地形構造は、山岳部・丘陵部・山地部の3つに大分できます。

山岳部は、全国的にも有名な標高1,915mの那須岳（別名：茶臼岳）を頂点とする火山山地であり、斜面傾斜も30°以上の険しい地形となっています。

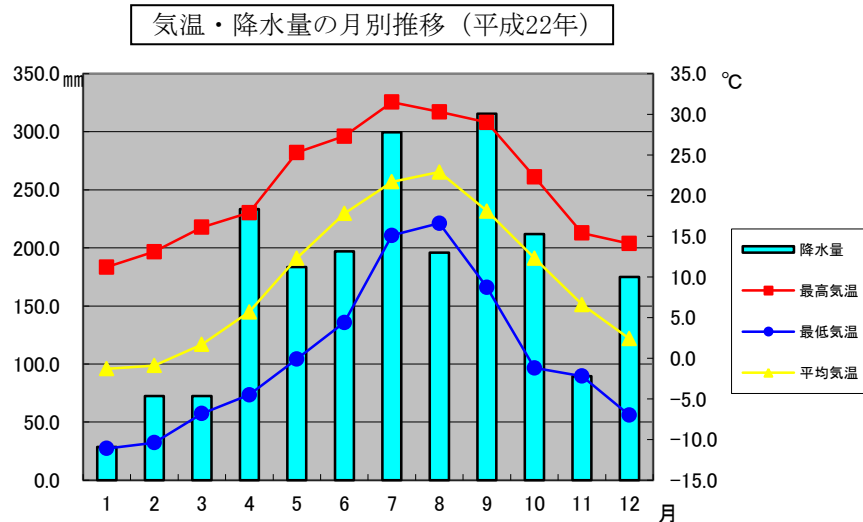
丘陵部は、山岳部裾野から黒田原地域を経て黒川の沿川まで広がっており、その中には余笹川をはじめとした河川による影響で多くの谷底平野が形成されています。

山地部は、栃木県・茨城県・福島県の県境に広がる八溝山地の一部で、600m程度の山々が位置しています。

植生は、山岳部の山頂周辺は自然植生であり、湯本地区から以東は主に代償植生となっています。また、八溝山地は、スギ・ヒノキ植林であり、八溝林業地帯の一部を担っています。

#### ④気候

気候は高原と平地で差があるものの、おおむね冷涼な高原型気候となっており、冬季の高原地域は20cmから40cm程度の積雪を観測することがあります。



#### ⑤地質・土壌

『土地分類基本調査（栃木県1996年）』によると、火山山地の大部分は、新生代第四紀における火山岩が分布しています。

那須火山の東麓部をなす緩傾斜地及び丘陵地は高久丘陵と呼ばれ、表層付近は那須火山に由来する未固結ないし半固結の火山性堆積物で構成されています。

那須野が原の低地は多湿黒ボク土壌が多く、下層に礫を含む土壌が多く分布しています。

#### ⑥水系等

那須町は那珂川水系に含まれ、那珂川・余笹川等の24の一級河川が流れています。

流域は、那珂川・余笹川・黒川などの主要な流域8つに分かれています。

平成10年8月末の集中豪雨に対する河川整備は、那珂川・余笹川・黒川・四ツ川・多羅沢川・黒田川で実施されました。

那須町を代表する池沼としては、矢の目ダム、千振湖、りんどう湖などがあります。このうち、りんどう湖においては、民間レクリエーション施設が立地しており、多くの観光客で賑わっています。

#### ⑦その他自然特性

那須高原、新高久、千振湖・矢の目ダム周辺、芦野・伊王野の一部の森林においては、鳥獣保護区が指定されており、その中でも那須御用邸付属林や南月山西斜面は鳥獣保護区特別保護地区になっています。

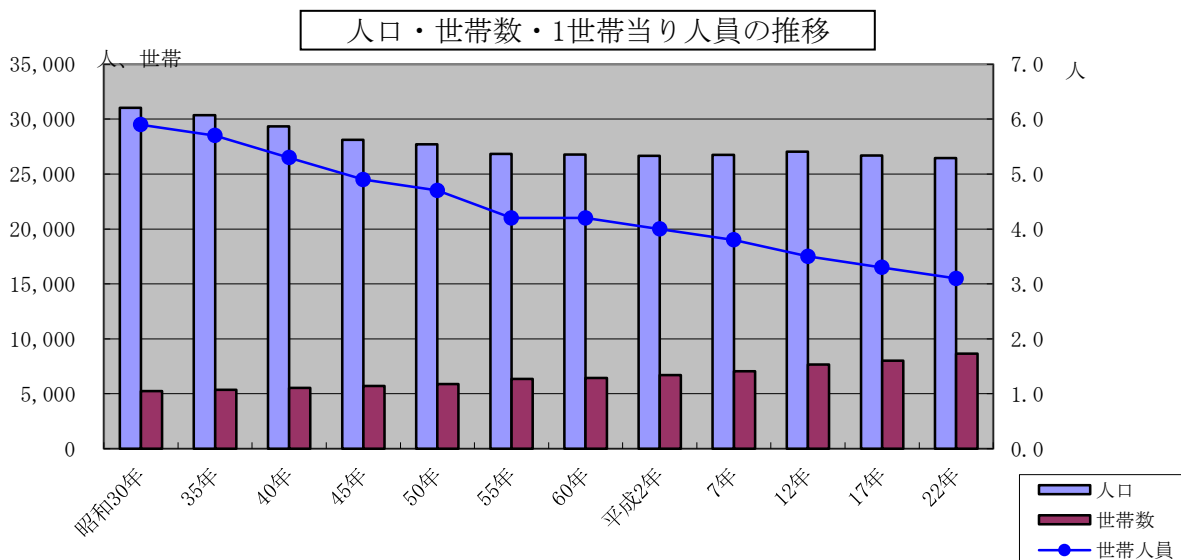
## (2) 人口特性

### ①人口・世帯数等の推移

昭和29年合併時には約31,000人であった人口は、高度成長期に入った頃から町外への流出が目立ちはじめ、昭和30年から55年にかけて減少傾向が続きました。

昭和60年以降は微増加、微減少を繰り返しながらも、近年は概ね26,000人程度で安定しています。

また、世帯数が増加し、1世帯当り人員が全国的にも減少傾向にあります。



### ②都市計画区域人口の推移

都市計画区域内人口は、昭和55年以降それまで減少傾向だったものが近年は安定した人口となっています。

平成6年より指定された用途地域内人口は減少傾向ですが、用途地域外では住宅地開発や別荘地の定住化などにより増加傾向にあります。

都市計画区域人口の推移

区分	昭和50年	昭和60年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
行政人口	27,669	26,789	26,748	27,027	26,693	26,450
都市計画区域人口	20,099	19,787	20,368	20,982	21,037	22,086
用途地域	/		4,983	4,650	4,402	4,104
用途地域外			15,385	16,332	16,635	17,982
都市計画区域外人口	7,600	7,212	6,380	6,045	5,656	4,364

※行政人口は、国勢調査を参照。(昭和50年から平成12年は県都市計画基礎調査資料を参照)

### ③地域別人口の推移

地域別人口の推移は、大規模な別荘地のある地区や那須塩原市に近接する地域で増加傾向にあります。

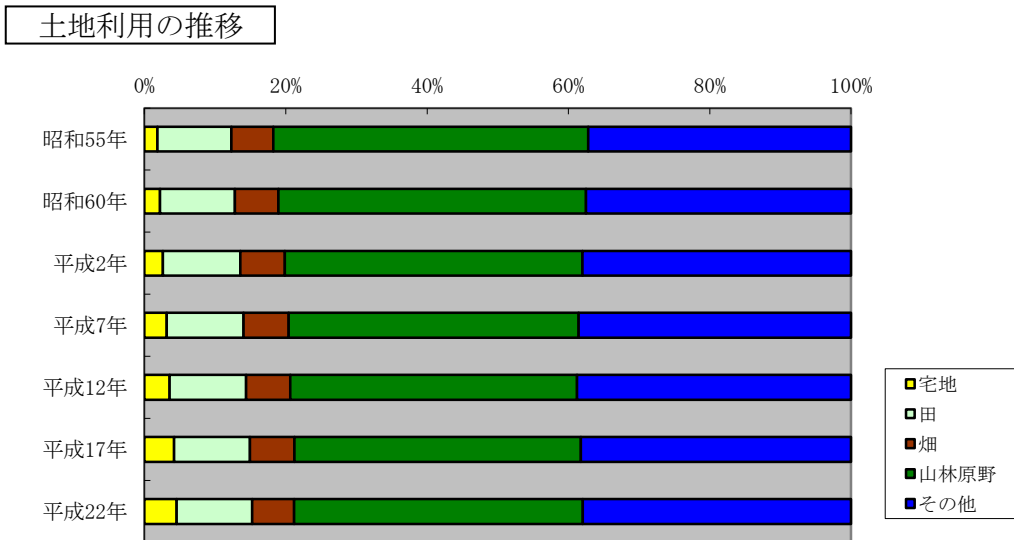
また、湯本地区・黒田原地区の用途地域内と都市計画区域外である芦野・伊王野地域は減少がみられます。

#### ④土地利用特性

平成22年度の土地利用地目別面積をみると、山林原野が全体の約40.8%、田・畑等の農地が16.6%、宅地が4.6%となっています。山林原野については、農用地の拡大や宅地の増加により微減少傾向にあります。

また、別荘地開発が約5,700haにも及びその多くは投機的なものですが、近年では大規模な開発計画は減少しています。

山林や農地の面積が減少しているのに対し、宅地面積は増加しており平成22度(16.99Km<sup>2</sup>)は平成2年(9.72Km<sup>2</sup>)の約1.7倍となっています。



### (3) 文化財

#### ①歴史的環境

那須町には、国指定2・県指定8・町指定61(平成22年度末現在)の文化財があります。

その多くはかつて宿場町・城下町であった芦野地区及び伊王野地区に集積しています。

### (4) 観光・レクリエーション等

#### ①観光・レクリエーション施設

那須高原には、多くの観光・レクリエーション施設が集積し、また、森林環境に配慮した様々な美術館・博物館も多く、広域的なリゾート地にふさわしいレクリエーション空間が形成されています。

ゴルフ場は9か所あり、町内外から高原スポーツを楽しむ多くの利用者が訪れています。

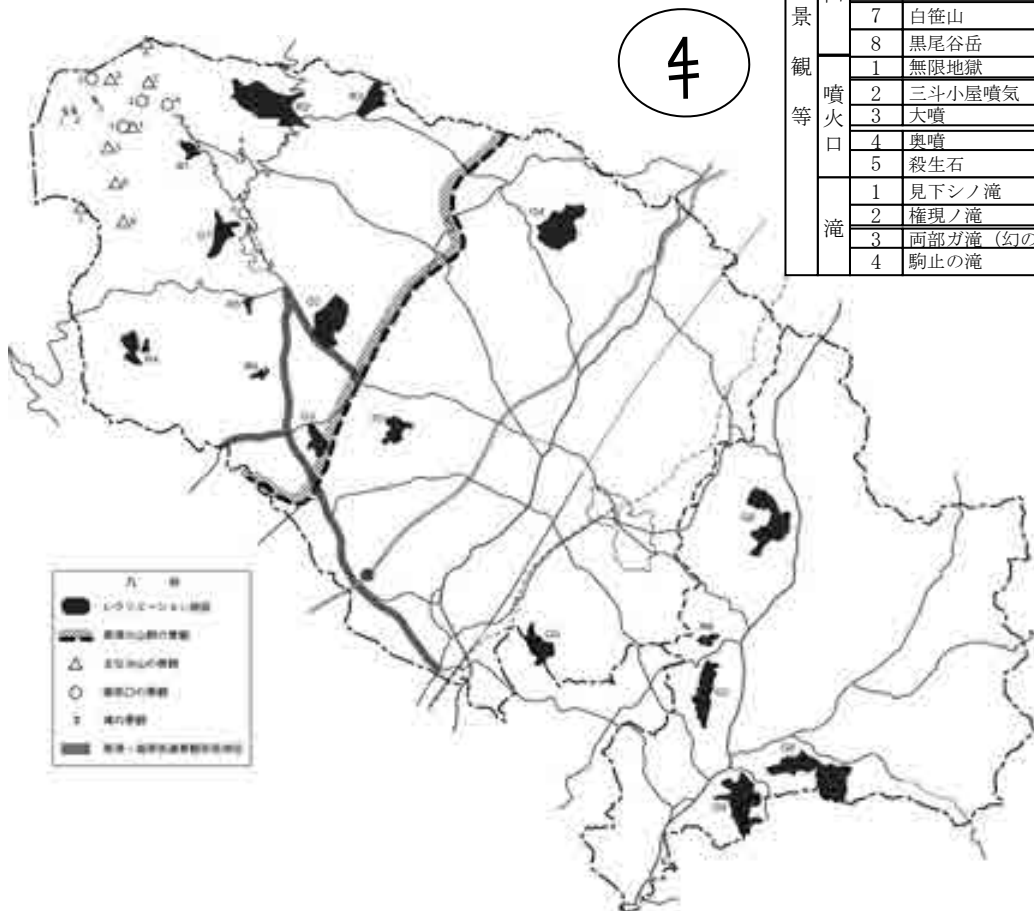


## ②景観特性

茶臼岳をはじめ、朝日岳、隠居倉などの那須火山群により形成されている山並みや峡谷・滝等の眺め、また、山々から一望できる関東平野の眺めなど、那須町独自の魅力ある風景は貴重な資源といえます。

また、主要地方道那須高原線を主軸に那須・塩原街道景観形成地区が指定されており、アカマツ林などと調和する良好な沿道景観づくりが進められています。

主な観光・レクリエーション施設と良好な景観資源



種別	対象番号及び名称	
主な施設 レクリエーション	R1 那須温泉ファミリースキー場	
	R2 マウントジーンズスキーリゾート那須	
	R3 那須どうぶつ王国	
	R4 那須ハイランドパーク	
	R5 南ヶ丘牧場	
	R6 那須サファリパーク	
	R7 りんどう湖ファミリー牧場	
	R8 芦野温泉	
ゴルフ場	G1 那須ゴルフ倶楽部	
	G2 那須国際カントリークラブ	
	G3 25那須ゴルフガーデン	
	G4 那須ちふり湖カントリークラブ	
	G5 那須チサンカントリークラブ	
	G6 アイランドゴルフリゾート那須	
	G7 ヴィレッジ那須ゴルフクラブ	
	G8 那須霞ヶ城ゴルフクラブ	
	G9 那須伊王野カントリークラブ	
主な火山	1 茶臼岳	
	2 朝日岳	
	3 隠居倉	
	4 三本槍岳	
	5 日の出平	
	6 南月山	
	7 白笹山	
	8 黒尾谷岳	
	噴火口	1 無限地獄
		2 三斗小屋噴気
3 大噴		
4 奥噴		
5 殺生石		
滝	1 見下シノ滝	
	2 権現ノ滝	
	3 両部ガ滝 (女の滝)	
	4 駒止の滝	

## 2-2. 課題の整理

### (1) 現況特性から類型化される課題

#### ①広域的位置づけについての課題

国際的な観光拠点である日光・那須エリアの主要都市としての観光機能を強化するため、広域的な都市連携を推進し、ハード・ソフト両面でのサービス向上を図る必要があります。

#### ②各種開発等についての課題

別荘地における建物の立地促進や景観・防犯などの様々な問題や、別荘地を含めた那須町全域の課題である水源確保・水供給などに対応するため、全町的な土地利用方針の明確化と居住環境・生活環境の向上を図る必要があります。

#### ③居住環境の整備についての課題

都市基盤施設の整備を含めた総合的な居住環境・生活環境の向上を進めるとともに、湯本地区・黒田原地区における用途地域のイメージに合ったまちづくり、その他の主要な集落における地域の魅力を活かしたまちづくりの推進を図る必要があります。

#### ④都市施設の整備についての課題

広域的な観光地としての効率的な交通ネットワークと、生活・産業を支援する道路網の形成を図るとともに、公園・緑地・下水道などの良好な居住環境・生活環境形成に不可欠な施設についても効率的な整備を図る必要があります。

#### ⑤農林業の振興についての課題

農林業の振興により、産業のバランスのとれた活性化を図る必要があります。

#### ⑥鉱工業の振興についての課題

鉱工業の振興により産業の活性化と雇用・就業の場の確保を図る必要があります。

#### ⑦商業の振興についての課題

湯本地区・那須高原における観光産業の振興を図るとともに、那須町全域における近隣商業サービスの向上により、居住環境・生活環境の向上と雇用・就業の場の確保を図る必要があります。

#### ⑧観光の振興についての課題

観光における諸課題（交通渋滞、ネットワーク不足、駐車場、観光案内、街並み形成、ゴミ問題等）を認識したうえで、関連する施策等と連携させつつ解消を図る必要があります。

#### ⑨自然環境の保全・活用についての課題

那須町のイメージとなっている良好な自然環境を保全し、個性と魅力あるまちづくりの理念として活かすとともに新たな開発においては自然環境との調和・共生を図り、那須町らしさを大切にしていける必要があります。

## (2) 総合的な課題の整理

現況特性より整理された課題の類型を3つに大別し、基本構想・基本計画への反映を図ります。

### 課題の類型

①広域的位置づけ  
についての課題

②各種開発等  
についての課題

③住居環境の整備  
についての課題

④都市施設の整備  
についての課題

⑤農林業の振興  
についての課題

⑥鉱工業の振興  
についての課題

⑦商業の振興  
についての課題

⑧観光の振興  
についての課題

⑨自然環境の  
保全・活用  
についての課題

### 総合的な課題

#### 居住環境・生活環境の充実

都市機能の充実、居住環境・生活環境の向上、産業の振興・拠点形成など、生活基盤づくりと快適性の向上の両面において充実を図り、住みよいまちづくりを推進する必要があります。

#### 交通ネットワークの構築

生活における利便性の向上、産業活動の支援、自然・観光・レクリエーション拠点等のネットワークづくりなど、広域的・地域的な条件等を十分に考慮しつつ、道路・鉄道・公共交通等の交通ネットワークを構築する必要があります。

#### 那須町らしさの創出

町民としての愛着と誇りにつながるような、那須町らしい自然と歴史・文化を活かしたまちづくり（居住環境・生活環境や交通ネットワークを含めたまちづくり）を図る必要があります。

